

# ベルボン製品を正しく安全にお使いいただくために

## 安全上のご注意

### 必ずお守り下さい


本製品を安全にお使いいただくために、本製品をお使いになる前には必ず本書をお読みいただき、内容をよくご理解のうえ、お読みになった後は大切に保管して下さい。本書ではお客様や他の人々への危険、財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。


■表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

**警告** この表示の欄は、「死亡または重傷等を負う可能性が想定される」内容です。

**注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性・又は物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。











■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

 このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

 このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

お客様ご相談センター：0551-25-6155 (山梨県北杜市)











ご購入者WEBアンケート：<http://www.velbon.com/jp/user.html>

<b>警告</b>	
<p> 可変石突などのスパイクを備えた三脚や一脚を持ち運びする際は、安全のため必ずゴム石突に交換するか、ケースやレグボシエット等を使い、スパイクがむき出しにならないように気を付けて下さい。死亡や大ケガの原因となります。電車内など周囲に人が多い場合は、いっそうの注意が必要です。</p>	<p> 三脚には、推奨積載質量が設定されています。必ずその範囲内のカメラを使用して下さい。特に雲台が付いた三脚自重の2倍を超えるカメラを使用すると、安定性が極端に悪くなりますのでご注意ください。三脚が転倒し死亡や大ケガにつながる恐れがあります。またカメララブレの原因にもなります。</p>
<p> カメラを装着したまま脚の伸縮調整や雲台の操作をする際は、必ずカメラ本体を手で支えながらおこなってください。三脚やカメラが意に動き、カメラを破損したり手を三脚にはさまりケガをする恐れがあります。カメラやレンズの形状によってはバランスが取りにくいこともあるので、十分に気を付けて下さい。</p>	<p> 三脚を設置する際は、十分に注意しておこなってください。あやまって指や手をはさむとケガにつながります。また各ロック箇所やストッパーがゆるんでいないか、再度確認して下さい。不意に三脚が縮んで転倒し、カメラが破損する恐れがあります。事前に取扱説明書をよく読み、確かめながら操作して下さい。</p>
<p> 三脚は撮影用の機材です。絶対に三脚の上に腰掛けたり乗ったりしないでください。転倒し、死亡やケガにつながります。また一脚を杖代わりにし、歩行補助の器具にするような行為は、不意に脚が縮み転倒するなどの思わぬ事故につながりますので、絶対におやめ下さい。強度的にも大変危険です。</p>	<p> ぐらついた台の上や不平整・傾斜面など、不安定な場所で三脚を使用する場合は、十分に注意して下さい。特に高位位置での使用の場合、頭や足の上などに落下すると、死亡や大ケガにつながる恐れがあります。必ず三脚を設置する前に、設置場所や周囲の状況をよく確認して下さい。</p>
<p> 三脚や一脚は、金属部品やカーボン繊維で構成されており通電しますので、高圧線など電気が通っている物の近くでは使用を避けて下さい。また落雷の恐れがある場合は、絶対に使用しないで下さい。そのような場所では撮影を止め、速やかに避難して下さい。</p>	<p> 三脚の使用時は、3本の脚を十分に開いて下さい。脚の開きが不十分だと、不意に三脚が倒れ、ケガや破損の原因となります。また不安定な状態での使用は、カメララブレの原因にもなります。</p>
<p> 三脚や一脚を壁に立てかけたり、脚を閉じて細身な状態で立て置いておくとき、不意に倒れる恐れがあります。三脚や一脚は、できるだけ横にして(寝かせて)保管して下さい。</p>	<p> 三脚や一脚を、小さなお子様の手の届く場所に設置・保管しないで下さい。指や手をはさんだり倒れたりして、死亡や大ケガにつながる恐れがあります。またベルトやストラップのある製品については、お子様の首に巻きついたりしないよう、しっかりと管理して下さい。</p>

## お手入れ・アフターサービス

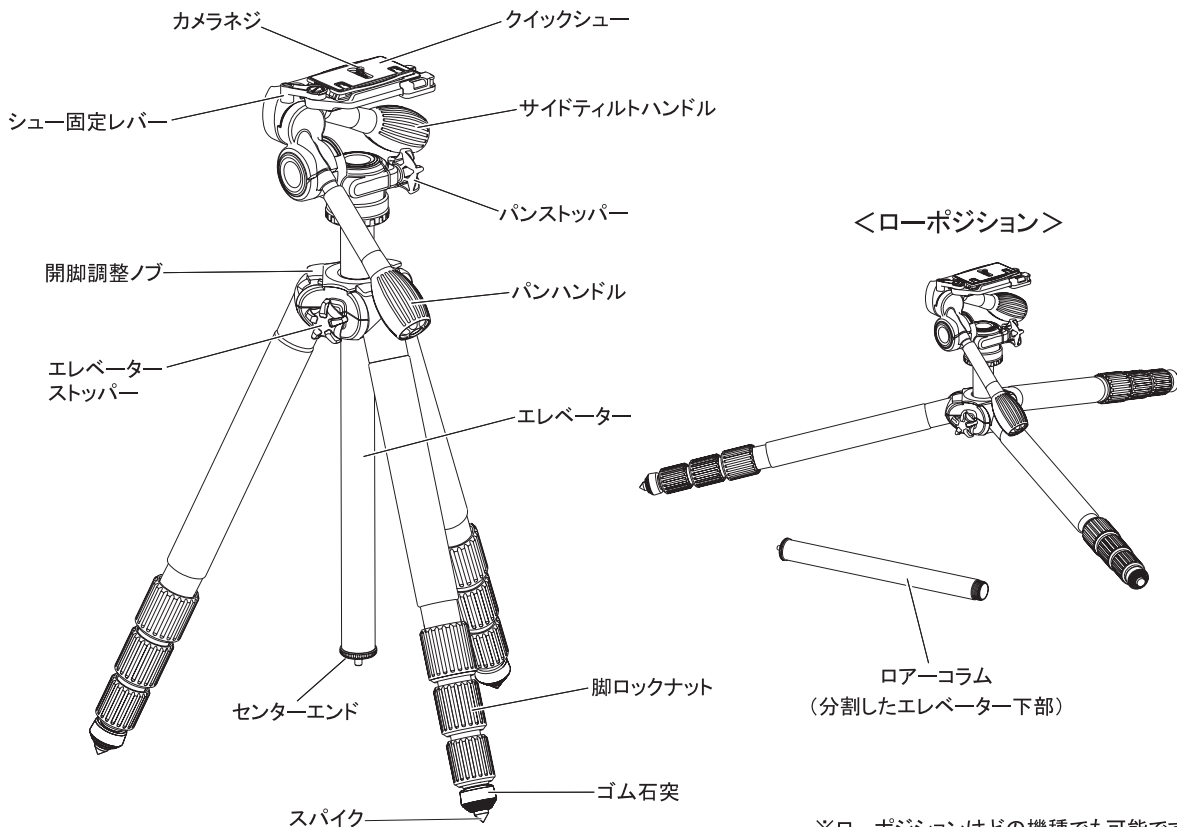
- ご使用後は必ず濡った布で汚れを拭きとった後、乾いた布でよく拭いて保管して下さい。特に、海岸および温泉地等のご使用後、そのままの状態を放置すると錆びや故障の原因となりますので、お気を付け下さい。
- 雨などで三脚が濡れてしまった場合は、乾いたきれいな布で水分をよく拭き取り、脚部は全段を伸ばしてよく乾かして下さい。脚パイプの奥まで濡れてしまった場合は、一度点検に出すことをオススメします。下記のお客様ご相談センターまでご連絡下さい。
- 清掃の際はシンナー等の薬品は使わないで下さい。
- 修理または部品を紛失した場合は、販売店下記お客様ご相談センターへ直接お問い合わせ下さい。本製品の性能部品は、製造終了後5年を目安に保有しております(この期間後であっても修理可能な場合もあります。お問い合わせ下さい)。
- 製品改良のため、予告無しに仕様・デザイン・諸元等を変更することがありますので、予めご了承下さい。

製造・販売サービス **ベルボン株式会社**  
 〒165-0027 東京都中野区野方6-1-5  
 電話：03-5327-6133 FAX：03-5327-6114  
 ホームページ：<http://www.velbon.com>

<b>注意</b>	
<p> 三脚や一脚に、カメラを装着したままの移動は、お避け下さい。予想以上の揺れが加わった場合カメラが落下する恐れがあります。特にカメラを装着したまま三脚や一脚を肩に担いで移動は、カメラが境界に入らないので大変危険です。移動時は必ずカメラを外して下さい。</p>	<p> 製品の使用温度範囲は0℃～40℃です。この範囲を超えるとき、高温下ではオイル漏れをおこしたり、低温下ではパン・フィル動作が重くなったりして、十分な性能が発揮されない場合があります。高温多湿な場所や直射日光があたる場所、自動車内等には決して放置しないで下さい。故障の原因となります。</p>
<p> 各々のネジやハンドル棒、固定レバー等は、必要とき以外は確実にしめて使用して下さい。ネジや固定レバーがゆるんでいると、三脚の転倒やカメラ破損の原因となります。また、ゆるんだ状態で移動すると、落とす危険性がありますのでご注意ください。</p>	<p> 長期間使用しなかった時や、大切な撮影の前には、必ず事前に各部を点検してから使用して下さい。また高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検に出していただく事をお勧めします。上記のお客様ご相談センターまでご連絡下さい。</p>
<p> 三脚や雲台各部へのオイル・グリス等の補給はしないで下さい。十分な性能が発揮されなくなる場合があります。稼動部の動きが悪くなってきた場合は、上記のお客様ご相談センターまでご連絡下さい。</p>	<p> 製品に水や砂がついたまま使用を続けると、稼動部から中に入ってしまう故障の原因となります。汚れてしまった場合は、必ずきれいな布でよく拭き取って使用して下さい。脚パイプが濡れてしまった場合は、必ず拭いた後によく乾かして下さい。</p>
<p> カメラを取り付けた状態で、不安定な場所に放置したり立てかけたりしないで下さい。転倒しカメラが破損する恐れがあります。</p>	<p> 冬の撮影や寒冷地でご使用される場合は、金属部が凍結する恐れがありますので、素手で操作しないで下さい。カメラマングローブ等の撮影用手袋を用いることをおすすめします。</p>
<p> 製品の分解・改造などをしないで下さい。異常動作によりケガや破損の原因となります。また分解・改造をした製品については、メーカー正規保証を受けられません。</p>	<p> 雲台の取外しが可能な製品の場合雲台を交換することができます。雲台の全てのストッパーやハンドルをしっかりとめ、雲台全体を反時計回りに回すと外れます。この時、雲台に顔を近づけていると、ハンドル等につまみつき大変危険です。十分に注意して作業して下さい。</p>

## 各部の名称

このたびは、ベルボン製品をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

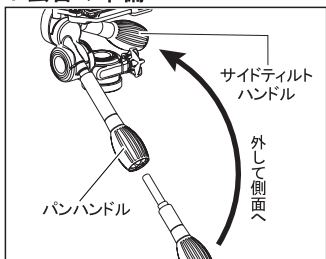


※ローポジションはどの機種でも可能です。

製品仕様	Geo Carmagne N635M	Geo Carmagne N645M	Geo Carmagne N535M	Geo Carmagne N545M
雲台	PHD-65Q	PHD-65Q	PHD-55Q	PHD-55Q
全高	1880mm	1700mm	1800mm	1680mm
エレベータースライド*	424mm	324mm	411mm	321mm
最低高	253mm	235mm	278mm	255mm
縮長	695mm	580mm	660mm	565mm
脚径	28/25/22mm	28/25/22/19mm	25/22/19mm	25/22/19/16mm
段数	3段	4段	3段	4段
質量	2230g	2170g	1850g	1850g
推奨積載質量	4000g	4000g	3000g	3000g

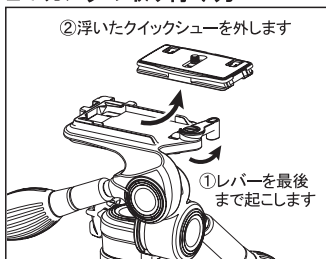
※記載の数値は平均的な値です。三脚は組み合わせ部品で構成されておりますので、記載数値と若干異なる場合があります。

### 1.雲台の準備



ご購入時はパンハンドルのグリップにサイドテイルハンドルがねじ込まれています。サイドテイルハンドルを回して外し、側面に取り付けてご使用下さい。三脚ケースに収納する際は、元のようにハンドルを結合して下さい。

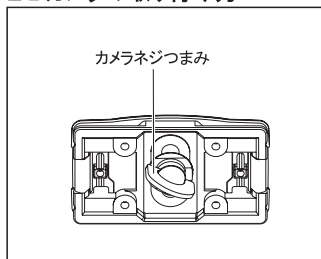
### 2-1.カメラの取り付け方



シュー固定レバーを最後まで起こすと、クイックシューが浮き上がりますので、上図の矢印方向へスライドさせながら、本体から外します。

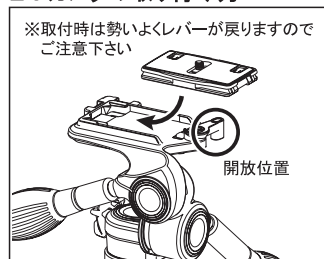
⚠ カメラを取り付ける際は、必ずカメラをしっかり保持しながら慎重におこなって下さい。クイックシューが装着部からはみ出したりせず、動かずに確実に固定されている事を確認して下さい。

### 2-2.カメラの取り付け方



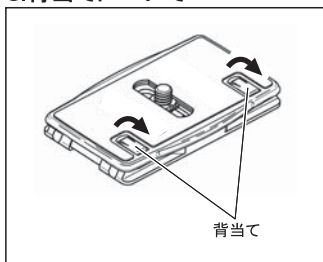
カメラ底面のネジ穴と、クイックシューのカメラネジを確実に合わせ、クイックシュー裏面のカメラネジつまみを起こして回し、しっかりと確実に取り付けして下さい。

### 2-3.カメラの取り付け方



※取付時は勢いよくレバーが戻りますのでご注意ください。シュー固定レバーを開放位置にした状態でクイックシューをレバー側から斜めに滑らせるように取り付け、下に押し付けるとレバーが戻り半自動固定されます。後は手動でレバーを確実に押し込んで下さい。

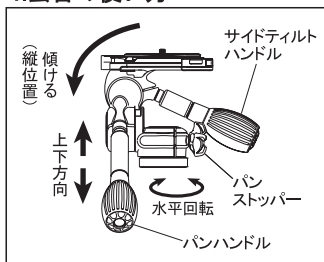
### 3.背当てについて



背当てをおこすと、縦位置撮影時のレンズ重さによる「前倒れ」を防ぐことができます。カメラネジの位置を調整してカメラの背面にうまく合わせて下さい。

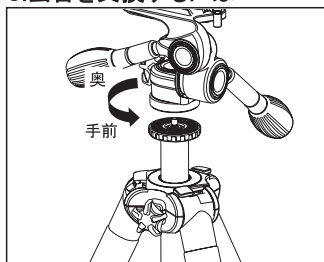
※カメラの形状によっては位置が合わず、機能しない場合があります。

### 4.雲台の使い方



パンハンドルを反時計方向に回し緩めると、カメラの上下方向が変えられます。サイドティルトハンドルを回し緩めると、カメラを縦位置にすることができます。パンストッパーを回し緩めると、カメラを水平回転することができます。構図が決まった位置で各々ストッパーを締め、シャッターをきります。

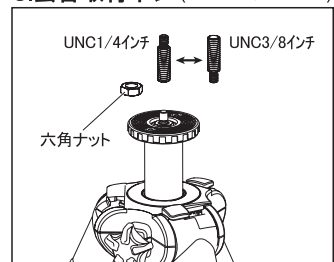
### 5.雲台を交換するには



雲台を交換する場合は、各ハンドル棒とストッパー類及び三脚のエレベーターストッパーをしっかりと締め、雲台全体を反時計方向に回して外して下さい。自由雲台など他の別売雲台に交換可能です。

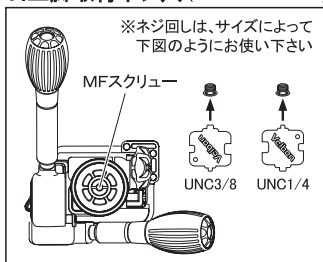
※雲台取付ネジ=UNC1/4(細ネジ)

### 6.雲台取付ネジ (N600シリーズのみ)



N600シリーズは雲台取付ネジのサイズを変換することができます。海外メーカー製の雲台を付ける場合は、UNC3/8(太ネジ)にサイズ変換して下さい。付属の工具で台座の六角ナットを外し、雲台取付ネジを逆さにしてねじ込みます。その後、六角ナットを元通りに締めこみます。

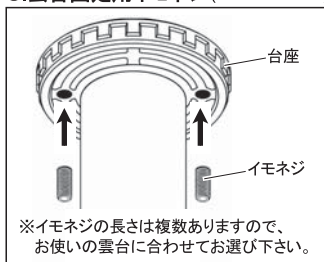
### 7.三脚取付ネジ穴 (N600シリーズのみ)



雲台の三脚取付ネジ穴はご購入時はUNC1/4インチ(細ネジ)用となっています。UNC3/8インチ(太ネジ)の取付ネジを使う場合は、付属のネジ回してMFスクリューを交換して下さい。

※MFスクリューは緩み止め処理がされていますので固めになっています。

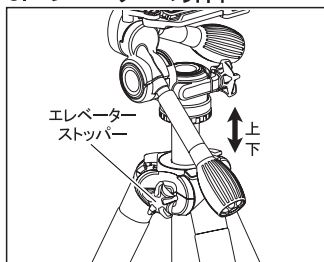
### 8.雲台固定用イモネジ (N600シリーズのみ)



操作時に雲台が緩まないようにするための「雲台固定用イモネジ」が付属しています。台座下から同梱の六角レンチでねじ込み、雲台底面に突き当てして下さい。

⚠ イモネジの機能上、雲台底面に傷が付くことがあります。

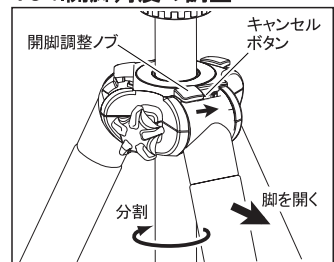
### 9.エレベーターの昇降



エレベーターストッパーを回して緩めると、エレベーターの昇降ができます。必要な位置でストッパーを締めて固定します。

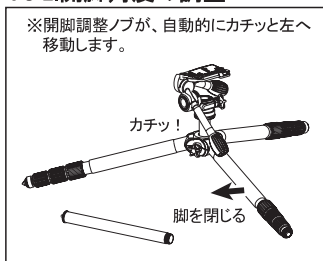
⚠ エレベーターの操作は、必ずカメラを手で支えながら、慎重におこなって下さい。

### 10-1.開脚角度の調整



脚を閉じた状態で、開脚調整ノブをカチッと止まる位置まで右にスライドさせ、脚をいっぱい開くとローポジションとなります。エレベーターは固定した状態で下部を回すと、分割できます。※誤ってノブをスライドさせてしまった場合は、キャンセルボタンを押して元の位置に戻すことができます。

### 10-2.開脚角度の調整



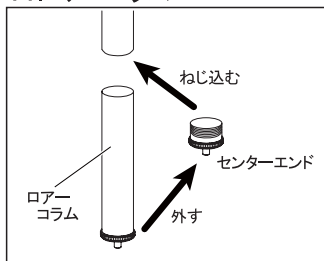
ローポジション(上図イラスト)にした脚をゆっくり閉じていくと、開脚調整ノブが自動的にカチッと左方向へスライドします。この位置がセミローポジションとなります。

### 10-3.開脚角度の調整



さらに脚を閉じていくと、再び開脚調整ノブが自動的にカチッとスライドし、標準開脚に戻ります。

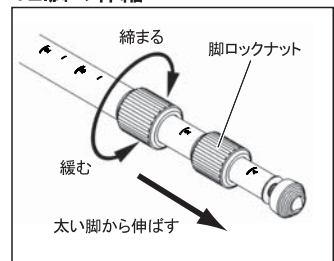
### 11.ローコラム



分割したエレベーター下部を、ローコラムと呼びます。先端に付いているセンターエンドを回して外し、分割部分にねじ込み「フタ」にすることができます。

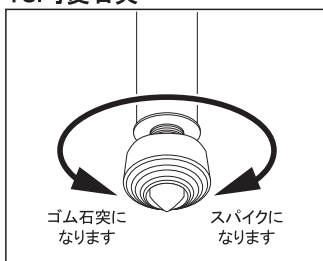
⚠ 外したローコラムを無くさないよう、ご注意ください。

### 12.脚の伸縮



脚を伸ばす時は上の段から順に伸ばします。縮めるときは下の段から順にしまってください。なお、脚には目盛りがふられています(数字は約5cm間隔)。目線位置等の目安とすると便利です。※目盛りはあくまで目安です。精密に測られているわけではありません。

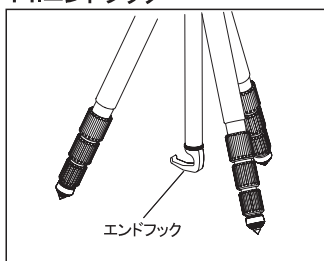
### 13.可変石突



脚の先端は「可変石突」になっています。設置する地面の状況に応じて先端を回し、ゴム石突とスパイクを変換して下さい。

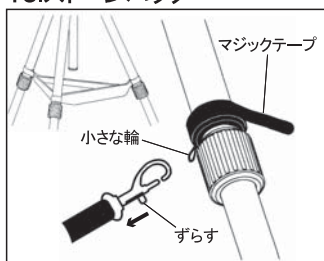
⚠ 危険ですので携帯時は必ずゴム石突にして下さい。

### 14.エンドフック



付属のエンドフックは、上図のようにセンターエンドに取り付けて使用します。カメラバッグ等を吊り下げ、安定性を確保します。吊り下げたバッグが風にあおられるとブレの原因になりますので、ベルトは出来るだけ短くして吊り下げして下さい。

### 15.ストーンバッグ



風の強い場所では、重し入れとしてストーンバッグをお使いください。バンドの小さな輪ができていて内側にして、3本の脚それぞれにマジックテープできつく巻きつけます(上図)。その輪にストーンバッグのフックを引っかけて使用します。